

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 07-080164

(43)Date of publication of application : 28.03.1995

(51)Int.Cl.

B26B 13/28

(21)Application number : 05-254997

(71)Applicant : SHIGERU KOGYO:KK

(22)Date of filing : 17.09.1993

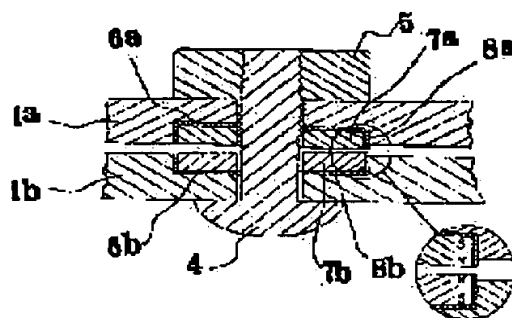
(72)Inventor : FUJITA SHIGERU

(54) HAIRCUTTING SCISSORS

(57)Abstract:

PURPOSE: To provide a pair of haircutting scissors allowing smooth opening/ closing actions by burying magnet bodies in contact forming portions on the action section sides of the opposite faces of both edge bodies at the pivotal section of a pair of edge bodies so that the opposite magnet bodies proximately face each other at repulsive poles at the time of pivoting.

CONSTITUTION: In a pair of haircutting scissors, a pair of edge bodies 1a, 1b formed with finger holes at their end sections are crossed into an X-shape, a fastening bolt (pivotal shaft) 4 is inserted into shaft holes bored at cross sections, a fastening nut 5 screwed to it is fastened, and the edge bodies 1a, 1b are pivotally connected to each other. Recesses 6a, 6b centering on the shaft holes are formed on the opposite faces of the edge bodies 1a, 1b at the pivotal section, and magnet bodies 7a, 7b are inserted into them, respectively. The magnet bodies 7a, 7b are inserted into the recesses 6a, 6b so that the opposite faces are repulsed each other at the same poles at the time of pivoting. A contact point is generated near the pivotal portion, and the opening/closing operability is improved.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 02.09.1996

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number] 2820600

[Date of registration] 28.08.1998

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平7-80164

(43) 公開日 平成7年(1995)3月28日

(51) Int. Cl.⁶
B 2 6 B 13/28識別記号 庁内整理番号
A 8916-3C

P I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数 3 F D (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平5-254997

(22) 出願日 平成5年(1993)9月17日

(71) 出願人 591130102

株式会社シゲル工業
新潟県燕市大字小高5397番地

(72) 発明者 藤田 茂

新潟県燕市大字小高5397番地 株式会社シ
ゲル工業内

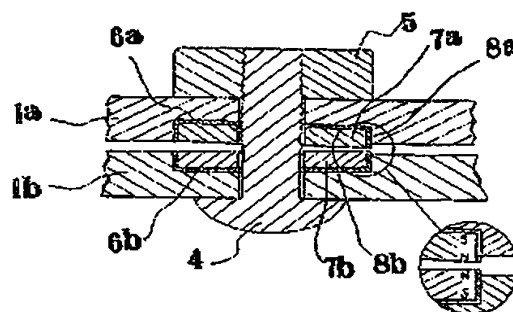
(74) 代理人 弁理士 近藤 彰

(54) 【発明の名称】 理容鏡

(57) 【要約】

【目的】理容鏡に於いて開閉操作性を向上させる。

【構成】枢結部の刀体1a、1bの対向面に、僅かに底面を傾斜させた凹部6a、6bを形成し、この凹部に反発する同極を対面させた磁石体7a、7bを嵌装し、非接触状態で枢結部を回動可能とする。



(2)

特開平7-80164

1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 一対の刀体をX上に交叉させ、両刀体を貫通する枢結軸で交叉部を枢結してなる環容鉄に於いて、枢結部の刀体の対向面の操作部側における刀体挟圧力に対応する触点形成部分に、表裏方向に磁化した磁石体を、枢結時に対向する磁石体が互いに反発する極で近接対面するように埋設してなることを特徴とする環容鉄。

【請求項2】 一対の刀体をX上に交叉させ、両刀体を貫通する枢結軸で交叉部を枢結してなる環容鉄に於いて、枢結部の刀体の対向面に、それぞれ軸孔を中心とし且つ刃先側を少し深くした凹部を形成し、表裏方向に磁化したリング板の磁石体を、前記凹部に枢結時に対向する磁石体が互いに反発する極で近接対面するように嵌装してなることを特徴とする環容鉄。

【請求項3】 請求項第1項又は第2項記載の環容鉄に於いて、磁石体を埋設若しくは凹部に嵌装した際、磁石体の表面を、枢結部近傍の刀体対向面より僅かに高く形成したことを特徴とする環容鉄。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は環容鉄に関するものである。

【0002】

【従来の技術】 鉄の基本的構成は、周知の通り一対の刀体をX上に交叉させ、両刀体を貫通する軸孔を穿設し、該軸孔に挿通した枢結軸で交叉部を枢結してなるものである。

【0003】 ところで鉄に於いては、両刀体に良好な剪断力を生じさせるため、刃体に摺れれを形成すると共に、枢結部と操作部（指孔、柄部分）との間に触点を形成し、鉄開閉操作時に枢結部を支点として触点に添っての回動で、刃体の接触部の摺れれに基づく当接刃先部分の圧力調整となり、被切断物のスムーズに切断が実現するものである。

【0004】 また従来の一般的な鉄は、前記触点が枢結部より離れた刀体内面に形成されているが、触点位置が枢結部と離れると、相応の触点の反力を得るため柄部分の操作は強い力を必要とする。

【0005】 然し環容鉄のように鉄を長く使用する者のための鉄は、その操作力がより以上スムーズである必要があり、前記の一般の鉄と相違して触点を枢結部に近づけて指孔部（柄部）の操作を軽くしている（特公昭57-50517号公報）。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】 触点を枢結部の近くに設定した場合、触点には強い圧力が加わることになり、摩擦抵抗が大きくなって逆に操作性を低下させてしまう場合があり、また前記の特公昭27-50517号公報に開示されているように樹脂リングを採用した場合、樹

2

脂リングの摩耗が激しくなる。そこで本発明は、枢結部分の近傍に触点が生じ且つ鉄の開閉操作がスムーズになる環容鉄を提案したものである。

【0007】

【課題を解決するための手段】 本発明に係る環容鉄は、一対の刀体をX上に交叉させ、両刀体を貫通する枢結軸で交叉部を枢結してなる環容鉄に於いて、枢結部の刀体の対向面の操作部側における刀体挟圧力に対応する触点形成部分に、表裏方向に磁化した磁石体を、枢結時に対向する磁石体が互いに反発する極で近接対面するように埋設してなることを特徴とするものである。

【0008】 また枢結部の刀体の対向面に、それぞれ軸孔を中心とし且つ刃先側を少し深くした凹部を形成し、表裏方向に磁化したリング板の磁石体を、前記凹部に枢結時に対向する磁石体が互いに反発する極で近接対面するように嵌装してなることを特徴とするものである。

【0009】 更に前記の各環容鉄に於いて、磁石体の表面を、凹部外縁部分より僅かに高く形成したことを特徴とするものである。

20 【0010】

【作用】 枢結部の刀体対向面に介装した磁石体は、互いに反発する極で対面しており、対向刀体を強く押し付けるように枢結部を形成しても、磁石体の強い反発力で枢結部の対向面は当接状態とはならないので、鉄の開閉動作に際して摩擦抵抗が生ぜず軽い力で行い得る。

【0011】 また磁石体が凹部の外縁より僅かに高く形成しておくこと、磁石体の磁力が小さくとも良い。

【0012】

【実施例】 次に本発明の実施例について説明する。本発明に係る環容鉄の基本的構成は、従前のものと同様に刀体1a、1bの刃部に指孔2a、2bを形成した一対の刀体をX上に交叉させ、交叉部に軸孔3a、3bを穿設し、この軸孔3a、3bを貫通する枢結ボルト（枢結軸）4に緊締ナット5を螺合して枢結してなるものである。

【0013】 本発明は特に前記の環容鉄に於いて、枢結部の刀体1a、1bの対向面に、それぞれ軸孔3a、3bを中心とした凹部6a、6bを形成し、枢結時に対向する凹部6a、6b内にそれぞれ磁石体7a、7bを嵌装してなるもので、特に凹部6a、6bは刃先側を少し深くした傾斜底面とし、磁石体7a、7bは、磁石体7a、7bの底面及び周面を、透磁率の大きな材質で形成した磁気ガイド部材8a、8bで覆い、前記凹部6a、6b内に枢結時の対向面が互いに反発する同極となるように嵌挿する。尚磁石体7a、7bは、枢結軸部（枢結ボルト4）の指孔部分側のみが近接して磁気反発効果が生じ、他の部分では生じないようにする。

【0014】 而して前記の環容鉄は、摺れれ刀体1a、1bの開閉操作時の当接刃先圧力が、磁石体7a、7bの指孔側の対向面の近接方向に作用することになるが、

50

(3)

特開平7-80164

当該対向面は磁石体7a、7bの反発力で、当接状態とはならない。このため強い圧力を受けても摩擦抵抗は発生しないので、枢結軸部分に近接して触点を形成した際の問題を解消し、軽い力で鉄の操作を可能とし、その鉄の操作性を著しく向上させてものである。

【0015】尚本発明は、前記実施例に限定されるものではなく、本発明は、枢結部の近傍に形成される触点を非接触状態に形成し、且つ枢結部自体も回転摩擦が生じないようにすれば良いもので、図4に例示するように、リング体とせず刀体1a、1bの回転動作に於いて触点作用を早す箇所に、弧状の磁石体9a、9bを埋設する構造でも良い。

【0016】勿論枢結部を構成する軸孔、枢結ボルト、緊締ナット等の具体的構造は任意に定めることができるものである。

【0017】

【発明の効果】本発明は磁石鉄に於いて、特に枢結部に反発する磁石体を介装したもので、鉄の刀体の振じれと*

*の組み合わせで形成される触点を、枢結軸に近接して設けると共に、近接形成時の相反する課題も同時に解決でき、開閉操作性に優れた磁石鉄を提供できたものである。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の第一実施例の全体図。

【図2】同分解斜視図。

【図3】同枢結部の断面図。

【図4】本発明の第二実施例の枢結部の断面図。

【図5】同刀体の内側面の正面図。

【符号の説明】

1a、1b 刀体

2a、2b 指孔

3a、3b 軸孔

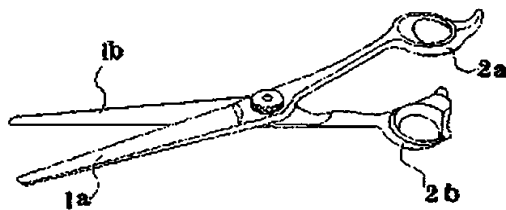
4 枢結ボルト

5 緊締ナット

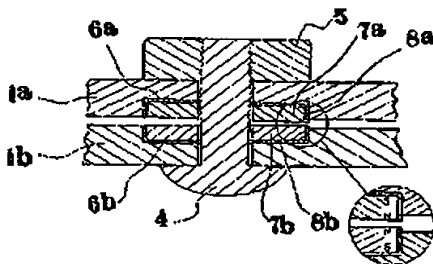
6a、6b 凹部

7a、7b、9a、9b 磁石体

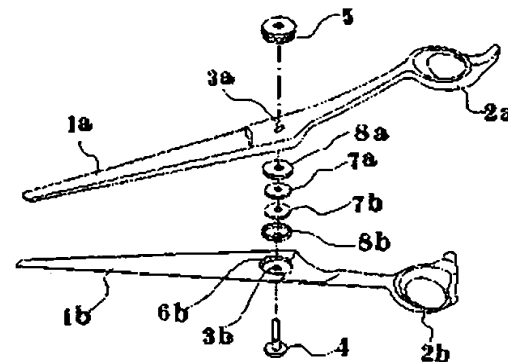
【図1】



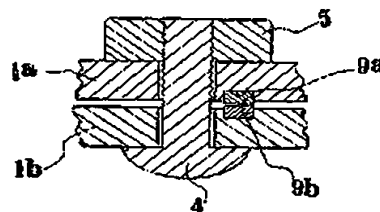
【図3】



【図2】



【図4】



(4)

特開平7-80164

【図5】

